

はくぶつかんネット 第53号

平成27年4月～6月号

(宜野湾市立博物館発行)

沖縄戦・戦後70年企画展

「沖縄戦から70年 ―戦場の宜野湾―」



【開催期間】 6月17日(水)～7月5日(日) 入場無料

※6月23日(火) 慰霊の日は閉館します。

今回の沖縄戦・戦後70年企画展「沖縄戦から70年 ―戦場の宜野湾―」は、沖縄戦の概要、宜野湾での戦況を写真パネルや実物資料等で振り返り、戦争と平和について考えることを目的としています。

宜野湾市は、沖縄戦において日米両軍が対峙した激戦地の一つであり、多くの住民が巻き込まれて命を失いました。

沖縄戦から70年が経った今日、実際に戦争を経験した方々も高齢になり、私たちの生活から遠ざかりつつあります。しかし、戦後世代の私たちもまた、沖縄戦の事実を受け止め、私たち一人一人が戦争の悲惨さや命の重さ、そして平和の尊さを理解する必要があるのだと思います。そして、これらの事実を風化させずに、次の世代へ語り継いでいくことが大切だと考えます。

6月23日は沖縄戦での組織的な戦闘が終結した日であり、慰霊の日として知られていますが、ぜひこの機会に当博物館へ足を運んでみてはいかがでしょうか。

■戦場となった宜野湾

米軍は1945(昭和20)年3月26日に慶良間諸島に上陸し、4月1日には沖縄本島の読谷村・北谷村の海岸から上陸しました。翌4月2日、米軍は沖縄本島を南北に分断しながら進撃を続け、宜野湾に到達しました。4月4日には、早くも野嵩に收容所を設営し、南への進攻を開始しました。

日本軍は上陸決戦を避け、持久作戦をとりました。その最前線が宜野湾の嘉数にある嘉数高地でした。西原の棚原～我如古～嘉数～宇地泊にかけて、日米両軍の主力による激しい地上戦となりました。この戦闘で、日米両軍に多数の死傷者が出ました。2週間余におよぶ戦闘の末、米軍の兵力や物量に圧倒された日本軍は、浦添の前田高地に退却しました。



↑焦土と化した嘉数高地

激戦地だった嘉数高地は、現在は嘉数高台公園として、市民の憩いの場となっています。公園の敷地内には、多くの慰霊碑や戦争遺跡があります。



CLOSE UP !



壁面に無数の銃弾の跡がはっきりと確認できます。また、中央の崩れた部分も砲弾によるものと考えられます。現在、壁の一部は嘉数高台公園へ移設しています。



↑銃弾の跡が残る民家(嘉数)

嘉数高台公園に残る戦争遺跡

戦争遺跡は、戦争の悲惨さを私たちに伝えてくれるね



【トーチカ】 大砲や機関銃などを備え付けた場所を、分厚いコンクリートでおおった陣地、拠点のことです。中に2～3人の日本軍兵士が入り、米軍へ攻撃をしていました。



【陣地壕】 軍の陣地として使われた、人工の洞窟です。嘉数に駐屯した日本軍は、嘉数高地やその周辺地域にいくつもの陣地を築きました。その作業には兵士だけでなく、多くの住民がかりだされました。



日米両軍が戦闘している間、住民はどこに避難していたのかな？

■住民の避難

沖縄戦の最中、宜野湾村民の一部は米軍上陸前に今帰仁村などの北部地域へ疎開しましたが、集落内に残り、避難壕に身をかくす住民もいました。米軍が上陸すると、米軍の捕虜となる住民や、壕から出て本島南部へ逃げる住民もいました。しかし、中には日本軍によって壕を追い出されたり、南部へ逃げたものの戦闘の巻き添えとなる人々も少なくありませんでした。



普天満宮洞穴内(普天間)



チヂフチャーガマ(浦添・嘉数)



フトウケーブ(喜友名)



ケレンケレンガマ(伊佐)

次回予告!!**沖縄戦・戦後70年企画展Ⅱ 「宜野湾、戦後の復興と暮らし」**

今年は、沖縄戦・戦後70年を迎えた年。この節目を迎えるに当たり、『沖縄戦・戦後70年企画展Ⅰ、Ⅱ』と企画展を開催しています。第1弾から、宜野湾の戦争について考えてきました。次回はその第2弾、宜野湾市の戦後の復興と暮らしをテーマにし、紹介していきます。

住民の帰村

収容所から帰村した人々が目にしたのは、変わり果てた郷里の姿でした。人々が戦前の地域(シマ)に戻れたのは、1945(昭和20)年10月以降で、嘉数・上原・愛知・長田など基地から外れた地域はシマに戻ることが許可されました。我如古・真栄原・大山・真志喜等は、米軍が割り当てた場所へ一度移動し、その後、元のシマに戻りました。しかし基地として接収された神山・宜野湾・新城・安仁屋などのシマの人々は、戻ることが出来ませんでした。



↑農業をする女性



↑ハウスメイドとして働く女性たち



↑移動間もないころの大山

働く人々

戦後の人々は、仕事に集約されていました。農業が零細化していたため、軍作業を仕事とする人々が多くいました。ハウスボーイやハウスメイド、コックやドライバーなど、若い人ほど軍作業に行く傾向がみられました。

開催期間 7月15日(水)～9月6日(日)**9時～17時 入場無料****★関連講座★**

「宜野湾の戦争と戦後」(室内)
6月28日(日) 14時～16時
定員50名 受講無料

「野嵩収容所跡をめぐる」(野外)
7月26日(日) 13時～16時
定員25名 受講料100円(保険料)

「戦後70年を語る」(室内)
8月9日(日) 14時～16時
定員50名 受講無料

※申込順となりますので定員に達し次第、締め切りとさせていただきます。
電話申込でも受け付けています。



市史だより がちまやあ Gači-majaa

【市史編集担当からのお知らせ】

市文化課市史編集係は、今年度より市立博物館学芸係に統合されました。これまで通り、市史編集事業は継続いたしますが、御用の際の窓口は博物館となります。また、市史だより「がちまやあ」は「はくぶつかんネット」の紙面に掲載していきます。今後とも皆様のご支援、ご協力を宜しくお願い致します。

地域探訪 ～大謝名編～

今年9月の博物館市民講座では「大謝名の獅子舞」見学ツアーを予定しています。そこで、1年を通し、3回に分けて「大謝名」を取上げます。



第1回 概要と地形

■「大謝名」ってどんなところ？

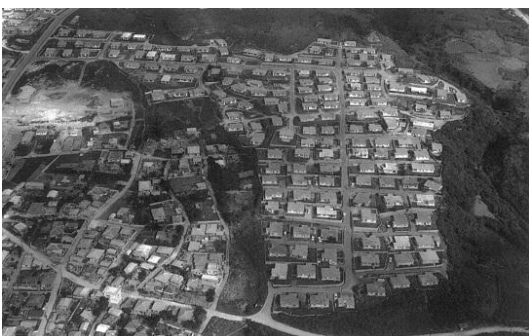
大謝名は宜野湾市の南側の行政区で、比屋良川をはさみ、浦添市の牧港と接している所にあります。後に中山王となる察度王が、即位する前に住んでいたと伝わるクガンナー

(黄金宮)や、日本商船と交易を行ったと伝わる場所など、察度とゆかりのある地が残っています。1671年に琉球王府によって宜野湾間切が新設されるまでは浦添間切に属していました。戦前は、1922(大正11)年に開通した沖縄県営軽便鉄道 嘉手納線が走っていて、大謝名駅がありました。



年中行事では旧暦8月15日に行われている獅子舞が有名です

(獅子舞については次号で詳しく取り上げます)。沖縄戦では人口582人のうち26%にあたる152人の方が亡くなり、犠牲になった方々を祀った「謝魂之塔」があります。1950年から1960年代にかけて、米軍人・軍属向けの賃貸住宅が建設されました。「外人住宅」は今でも残っていますが、新しく建てられた一般住宅も混在しており、居住者はほとんどが日本人になっています。



外人住宅(大謝名)

下の道路はパイプライン(『写真集 ぎのわん』より)

1970年代に水田地帯が埋め立てられ、県営大謝名団地や大謝名小学校が建てられました。その後、人口が急増したため、大謝名区自治会、大謝名団地自治会、上大謝名自治会の3つの自治会があります。国道58号と330号をつなぐ県道34号線「宜野湾西原線」があり、市内でも交通の要所となっています。NTT西日本大謝名局、銀行、飲食その他の商業施設があり、近年、大謝名三叉路が交差点となって開通し、都市機能も充実しています。幹線通りは交通量も多いですが、一步、中道に入ると、静かな住宅街が多い所です。



▲比屋良川からみた大謝名の崖

■大謝名の地形

大謝名は西海岸に向けて高低差のある地形をしています。上大謝名区あたりは標高 60m 程、大謝名区は 10～30m 程、大謝名小学校や大謝名団地のあたりはさらに低地となっています。また、南側に流れる比屋良川を大謝名では「メーガーラ（前の川）」と呼んでいました。川沿いは崖になっている場所もあり嘉数や浦添市牧港との境になっています。

右の写真は、大謝名二丁目にある海拔表示です。この辺りは大謝名で最も標高が高い場所です。急な坂道が多く、歩いていると上の方から大謝名・真志喜・宇地泊の市街地と海を眺めることができます。



左の写真は、大謝名団地前のコンビニにある海拔表示です。周りを見渡すと、国道 58 号やパイプライン通りがこの辺りよりも高い所に見えます。

高低差は約 60m !



大謝名に海があった？

貿易港ナトゥラバル（港田原）

大謝名小学校や大謝名団地がある低地は、かつて「ナトゥラバル」（小字名）と呼ばれていました。1702（元禄 15）年の『琉球国絵図』では水域として描かれ、大和の商船が出入りしていたと伝えられています。その後、長い年月をかけて陸化したと考えられます（詳しくは『宜野湾市史』第9巻 p69～p77 をご覧ください）。近くには大和船へ水を給水したと伝わる「ヤマトウガー」や、農具の鍛冶跡とされる「カンジャーガマ」もありました（現在は見ることはできません）。

アシニモー

大謝名から旅立つ人が乗る船を見送る場所でした。現在は大謝名四丁目の静かな住宅街となっています。小高くなっている場所で、立ち並ぶビルの向こうにちらっと海が見えます。昔はもっと近くに海や船が見えたことでしょう。



▲アシニモーがあった辺りからの景色

今回は大謝名の概要と地形についてご案内しました。実際に歩いてみると、昔の暮らしの跡が残る場所や海と街が一望できる景色の中で大謝名の人々が暮らしていることが分かりました。今回の内容に関する詳しいことは、『宜野湾市史』第5巻民俗編、第9巻自然編、『ぎのわんの西海岸』にも記載されていますので、興味のある方はぜひそちらもご覧になってみてはいかがでしょうか。

次回は、大謝名の道に関する今昔と地域で最大の年中行事である獅子舞についてご案内します。

平成27年度 市史編集事業の案内

ぎのわんの サングワチャー(三月遊び)調査

市史編集では、宜野湾市のいにしへの生活や伝統を後世に伝えるために、古くから行なわれている行事のひとつである旧暦3月3日の「サングワチャー(三月遊び)」を調査しております。

4月からは字宜野湾・我如古・長田でお話を聴かせていただいております。これからは、嘉数・大謝名・伊佐・普天間・新城・喜友名・真志喜・宇地泊にも伺う予定です。その際にはぜひご協力をよろしくお願い致します。



▲宜野湾のサングワチャー

伊佐浜の土地闘争編

お待たせしておりますが、現在、市史第8巻「伊佐浜の土地闘争」の編集作業の真っ最中です。

伊佐浜の土地闘争は1955(昭和30)年に米軍によって強制的に行われた土地収収です。この時期、米軍による土地収収は県内各地で起こり、土地を奪われた住民は抵抗し、のちの“島ぐるみ土地闘争”へと発展しました。

本編では、伊佐浜の土地闘争に関する資料や聞き取り調査での証言を収録します。今年度中には編集作業の大方を終え、28年度末には刊行できるよう編集を進めています。



▲『写真集ぎのわん』より



歴史公文書等整理・活用事業

「公文書」とは、国や地方公共団体の機関または公務員が、その業務上作成した文書のことです。「歴史公文書」とは、その中から選別した市政の施策、計画、市が主催した事業や行事等に関する文書等で、その時代の市政がわかる重要な文書の事です。

宜野湾市では戦後初期から本土復帰、現在までの歴史的・文化的価値が認められる文書を概ね収集しています。公文書を保存して後世へつなげ、市民の皆様に活用して頂くため、公文書のデータベース化(目録化)・CD化・マイクロフィルム化を進めています。



沖縄県地域史協議会・研修会



5月29日に2015年度 沖縄県地域史協議会 第1回研修会が今帰仁村で行われました。地域史協議会とは地域史研究と発展向上をめざし、地域文化の振興に寄与するために活動している36機関・個人51名で構成する会です。

研修会では、世界遺産・さくら祭りで有名な今帰仁城跡と今帰仁村歴史文化センターの見学、戦争に関連した講演・報告でした。今帰仁は沖縄戦当時、宜野湾の疎開先として指定された場所でもあります。中南部に比べて、あまり知られていない北部の戦況ですが、その悲惨さは変わりないものでした。他の地域を知り、他団体の取り組みを参考に、今後に生かしていきたいと思いました。

博物館職員紹介



今年度より、博物館学芸係に市史編集係が統合されました。

宮城邦治館長を含め半数の職員が新メンバーとなり、いっそう賑やかになりました♪



◆ 館長挨拶



宮城 邦治 館長

宜野湾市立博物館は昨年 15 周年を迎えました。昨年はこれまでの企画展に加え、比嘉悦子前館長のもと、博物館開館 15 周年記念企画展として「山田真山展」を開催しました。展示された彫刻や絵画は多くの市民や県民に大きな感動を与えると同時に、郷土の偉人である山田真山を、あらためて広く知らしめることができました。

博物館では今年も「沖縄戦から 70 年―戦場の宜野湾―」「宜野湾、戦後の復興とくらし展」「ぎのわんの“字”展」などの企画展、8 回の「博物館市民講座」、市内の児童を対象にした「わらば～体験じゅく」などを計画しております。多くの市民の皆さまのご来館とご参加を心よりお待ちしております。

また、今年は 20 周年に向けての新たな出発の年となることから、昨年度には「常設展示室整備基本計画書」を取りまとめました。今後は実施設計を経て、29 年度を目処にリニューアルする予定です。市民の皆さまには一日も早く、魅力的で好奇心に満ち溢れ、先人の生活の知恵と工夫を知ることができる市立博物館へとご案内ができるよう、スタッフ一同、日々頑張っていきたいと思っています。

宜野湾市立博物館 館長 宮城 邦治

◆ 新職員紹介

津波 陽子（学芸担当嘱託員）

今年の 4 月から博物館の学芸担当嘱託員になりました津波陽子です。大学院まで考古学を専攻しておりましたので、専門性を活かせるように頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

我如古 香（市史編集担当嘱託員）

こんにちは。今年度から市史編集を担当させていただくことになりました、我如古です。調査に出かける際は、地域の皆様と明るくお話をしようと思います。まだ不慣れなところはありますが、一生懸命頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

名嘉眞 恵美（市史編集担当臨時職員）

4 月から博物館の市史編集担当臨時職員として働く事になりました、名嘉眞恵美です。博物館で仕事をするのは初めてですが、宜野湾市の歴史や文化を学びながら早く仕事を覚えるように頑張りますのでよろしくお願いします。

比嘉 和純（証明書等交付担当臨時職員）

今年度 4 月から証明書交付等担当になりました、比嘉和純です。まだまだ分からない事ばかりですが、丁寧に仕事をこなしていきたいです。皆さま、どうぞよろしくお願いします。



宮城 邦治（館長）

安次富 尚金（主任主事）

津波 陽子（学芸担当嘱託員）

我如古 香（市史編集担当嘱託員）

伊波 菜々子（証明書等交付担当臨時職員）

平敷 兼哉（学芸係長）

武智 方寛（学芸担当嘱託員）

伊良波 洋子（市史編集担当嘱託員）

名嘉眞 恵美（市史編集担当臨時職員）

比嘉 和純（証明書等交付担当臨時職員）

今年度もよろしくお願いいたします♪



宜野湾市立博物館

平成27年度・年間行事カレンダー

*企画展は、無料でご観覧いただけます。

*行事の予定は変更する場合がありますので、開催前に博物館ホームページなどで詳しい内容をご確認ください。



企画展



【沖縄戦・戦後70年企画展①】 6月17日(水)～7月5日(日) 沖縄戦から70年 一戦場の宜野湾一

今年は戦後70年を迎える節目の年。本企画展では、宜野湾の原風景や沖縄戦の概要、戦闘中の住民の様子などを紹介します。宜野湾の変貌から、戦争や平和について考えます。

【沖縄戦・戦後70年企画展②】 7月15日(水)～9月6日(日) 宜野湾、戦後の復興と暮らし

戦後70年企画展第2回は、宜野湾の戦後についてです。企画展①からの連続企画展として、戦後の宜野湾について紹介します。

【小・中学校連携展】 9月30日(水)～10月18日(日)

第24回 ゐのわんの文化財図画作品展

市内在住の小学生(3～6年生)、中学生が描いた宜野湾市内の文化財を紹介します。

【企画展】 10月31日(土)～12月20日(日)

H25・26年度受入 新収蔵品展

地域の皆さまから寄贈・寄託して頂いた資料を展示します。宜野湾市立博物館のコレクションを是非ご鑑賞ください。

【地域との共同企画展】 1月27日(水)～3月6日(日)

ぎのわんの“字”展 ～大山編～

博物館と地域が連携し、各字の歴史や文化を紹介する企画展です。今年度は大山区を取り上げ、その特色や魅力に迫ります。

【博物館友の会】

宜野湾市立博物館友の会は、随時会員を募集中です。友の会会員向けの展示解説会やサークル活動などを行っており、市内外、年齢、性別を問わず、どなたでもご入会いただけます。会員特典や会費など、詳細につきましては、博物館窓口やホームページにてご確認ください。

宜野湾市立博物館

■入館料：無料 ■開館時間：9～17時(入館は16時30分まで)

■休館日：毎週火曜日、年末年始(12月29日～1月3日)

祝日(慰霊の日、文化の日は除く)

※火曜日と祝日が重なったときは、翌日の水曜日にも休館です。

その他、臨時休館になる場合もございます。

問合せ：〒901-2224 宜野湾市真志喜 1-25-1

TEL：(098) 870-9317 FAX：(098) 870-9316

詳しくはホームページまで <http://www.city.ginowan.okinawa.jp>

宜野湾市立博物館



市民講座



①宜野湾の戦争と戦後

講師：吉浜 忍(沖縄国際大学 教授)

日時：6月28日(日) 14時～16時

②野嵩収容所跡をめぐる(野外見学会)

講師：平敷 兼哉(宜野湾市立博物館学芸係長)

日時：7月26日(日) 13時～16時

③戦後70年を語る

講師：仲村 元惟(宜野湾市史編集委員会 委員)

日時：8月9日(日) 14時～16時

④大謝名の獅子舞見学ツアー(野外見学会)

講師：我如古 香(宜野湾市立博物館 嘱託員)

日時：9月27日(日) 17時～20時

⑤中部のグスクめぐり(野外見学会)

講師：知念 勇(元宜野湾市立博物館 館長)

日時：10月18日(日) 10時～16時

⑥湧き水めぐり(野外見学会)

講師：平敷 兼哉(宜野湾市立博物館学芸係長)

日時：11月8日(日) 13時～16時

⑦山田真山との思い出

講師：糸数 政次(沖縄県立芸術大学 教授)

日時：12月13日(日) 14時～16時

⑧めぐてい イガルーシマ(大山編)(野外見学会)

講師：平敷 兼哉(宜野湾市立博物館学芸係長)

日時：2月14日(日) 13時～16時

* 室内講座：定員50名、受講料は無料です。

* 野外講座：定員25名、受講料は100円(保険料)です。

【社会科見学、出前講座】

当博物館では、見学だけでなく学校の授業に合わせた体験学習や、博物館職員が学校に出向いての出前講座(宜野湾市内の学校限定)も行っています。どちらも事前の打ち合わせが必要になりますので、お早めにご連絡下さい。



◆案内表看板